

おもちゃ図書館がつなぐ
心とこころ

おもちゃの 図書館

育成ハンドブックNo.69

2009年11月発行

おもちゃ図書館で人気のおもちゃ





はじめに

おもちゃ図書館のボランティアから、おもちゃについて、どんなおもちゃを選んだら良いか、人気のあるおもちゃ、新しいおもちゃ、遊び方について教えてください、などの声をよくお聞きいたします。そこで、今号では、おもちゃ図書館で特に人気のあるおもちゃを全国のおもちゃ図書館から遊び方の工夫も含めて紹介して頂きました。おもちゃは、そこに集う人々の心とところをつないでくれます。おもちゃを上手に利用して頂ければ、何十倍も楽しいおもちゃ図書館になって参ります。参考にしていただけましたら幸いです。

目次

はじめに	2
レールセット 東京都 トイライブラリーぽけっと	3
玉おとし 岐阜県 郡上八幡おもちゃ図書館「ボン太」	4
つみき 兵庫県 猪名川町おもちゃ図書館げんき・ゲンキ	5
ままごと 札幌市 西区たんぽぽおもちゃ図書館	6
ボールプール 静岡県 函南おもちゃ図書館	7
布えほん 愛媛県 西条おもちゃ図書館 ぽけっと	8
魚釣り 岡山県 なぎおもちゃの図書館ひよこ	9
まと当て 新潟県 やひこ おもちゃポケット	10
楽器 大阪市 鶴見区おもちゃ図書館たんぽぽ	11
スイッチ 横浜市 いずみ会館おもちゃ図書館	12
Q&A ～おもちゃと遊びについて～	13
トイドクター リレートーク 東海市おもちゃ図書館附属おもちゃ病院 山下政夫	14
本の紹介	15

レールをつないで「進め！進め！」

東京都 トイライブラリーぽけっと 浅川恵子

「トイライブラリーぽけっと」にあるレールをつないで遊ぶおもちゃは、〔プラレール〕と〔プリオの自動車セット〕そして〔トーマス自動車セット〕で、どれも人気者です。子ども達はレールが無くても自動車や電車を手で押して走らせ、畳のへりや床に貼ってあるテープ等をレールに見立てては、さらに進んでいきます。

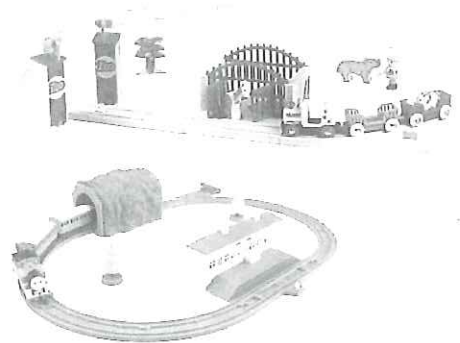
プラレールやプリオの自動車セットを見つけると、子ども達、特に男の子は目を輝かせて遊び始めます。まずは自動車や電車を長くつなげたい！レールも長くつなげたい！そして自分一人で思い通りに遊びたい！という気持ちでいっぱいになるようです。

電車などを繰り返し走らせ遊ぶうちにレールの外へのイメージが広がった子どもは、レール周辺にトンネルや駅、家や動物等を置き、自分の世界を構成します。

「ぽけっと」の夏の出来事ですが、子どもがプリオの自動車に本物の蟬を乗せて走らせていました。遊びの展開の豊かさとおもしろさを感じた一時でした。

一人でじっくり遊ぶことに満足できたら、人と一緒に遊びたい気持ちも芽生えてきます。自分の作ったコースを見て欲しい、一緒に電車を走らせて遊びたいなど、始めは家族やボランティアに遊びの要求が出てきます。そして子ども同士の遊びにまで発展すれば、こんなうれしいことはありません。

レールをつないで乗り物を走らせるおもちゃは、一人で集中して遊ぶ面白さ、レールの組み方を工夫できる面白さ、イメージを広げる面白さ、他の子どもと空間を共有し遊ぶ面白さなど、色々な楽しみ方の可能性を秘めています。いつの日か「ぽけっと」の部屋いっぱい子ども達とプラレールをつないで街や野山をつくり、思い切り電車の遊びをさせてあげたい、そんなことも願っています。



レールセット



玉おとし、一緒に遊ぼう

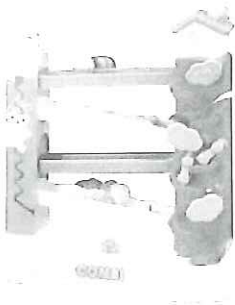
岐阜県 郡上八幡おもちゃ図書館「ポン太」代表 藤村蓉子

郡上八幡おもちゃ図書館「ポン太」は、町の南部コミュニティを市よりお借りして、ボランティア13名が交代に出て開いています。

利用者は、どんな人でも受け入れますが、ほとんどは、0～3才位の入園前のお子さんを連れのお母さんです。平均4組位で遊びます。

そこで、玉おとしのおもちゃで1番人気は「おちかた・いろいろ」ではないかと思えます。玉の他に汽車のような車、それにカタカタという音を立てて落ちるさるとかえらがある、いろいろな落ち方をします。はじめての小さなお子さんは、まずすべり台の途中から玉や車をおとし、下におちるとにっこりして、こちらを見ます。一緒に喜んであげると、何度もくり返し、上の方から、穴に入れたりすることを覚えます。大きい玉と小さい玉と一緒にすべらせたり、くねくね道をおちる車と、カタカタとおちるさるやかえるとを同時におとしたりしてあそびます。このおもちゃは、2台おいています。

玉の塔という小さい玉を小さい穴に入れるおもちゃは、すてきな音がして楽しいです。1才位までの子供さんには、玉が小さくて、口に入ったりするのが恐いので出しません。玉が散らばるのも困りますから、少し、大きい子供さんに遊んでもらい、1つずつ根気よく玉を入れること、お友達と分けあって、順番に遊べる様に指導しています。ひとりじめしたい子供さんには、私から「1つちょうだい」と声をかけ、一緒にあそぶ楽しさを教えることにしています。玉止めの大きい玉が使えるようになる頃には、保育園幼稚園へ行くころになるでしょう。



その他に、玉おとしとしては、数年前に手作りした物があります。ペットボトル2本、ラップの芯棒、牛乳パックで、螺旋状のすべり台を作りビー玉や鈴が落ちるようにしたおもちゃもよろこばれます。ただ上下をひっくり返して落ちるのを楽しむだけのものですが丈夫で長持ちします。またみんなで作ってみんなで遊ぼうかなと思っています。



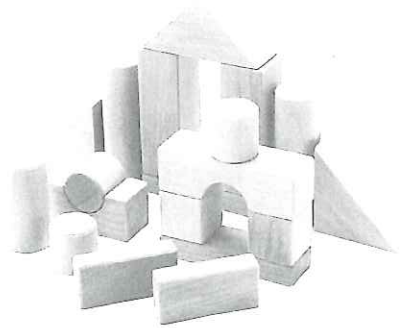
『つみき遊びのなかで…』

兵庫県 猪名川町おもちゃ図書館げんき・ゲンキ 担当 水本典子

猪名川町社会福祉協議会では「子育て支援事業」として『遊びのひろば“げんき・ゲンキ”』を毎月第4木曜日に実施しており、親子が集える場を提供してきました。地域全体で子育て支援ができるように、ボランティア、民生委員の方の協力を得ながら、心地の良い居場所作りを目指していました。平成18年に『おもちゃ図書館』との出会いでたくさんのおもちゃが増え、さらに充実したおもちゃ図書館活動が展開できるようになりました。

…子どもたちにとって居心地の良い場所とは…

楽しいところ。大好きなおもちゃがあるところ。と考えると、“げんき・ゲンキ”にとっておもちゃはみんなをつなげる大切なものになりました。おもちゃのなかで子どもたちの人気者が「つみき」です。ボランティアさん手作りの四角柱、三角柱の白木のつみきがあり、子どもたちの人気を集めています。つみきの遊び方はさまざまで、円形に並べて部屋を作ったり、道路を作ったり、ままごとのおかずになったり、思い思いに変身させています。最終的には、積み上げては壊し、また積み上げるという、オーソドックスな繰り返し遊びで楽しんでいます。他の友だちが壊しても、『また、つくれるやん!』と許してあげている様子を見ると、私たち大人も心優しい気持ちになれます。また、おもちゃのなかには、ボランティアさん手作りの布おもちゃ（布人形・フェルト野菜・タオル地のボールなど）もあります。布のソフト感覚と木のハード感覚を、遊びの中で味わっているようです。布のおもちゃは当たっても痛くないことがわかり、つみきは投げて人に当たると痛いことがわかります。そんな経験が大切だと思っています。0歳から就園前の異年齢の子どもたちが、また障がいのあるなしに関係なく、お互いのちがいを認めながら、おもちゃを通じて触れ合って、何かを感じてくれ、優しい気持ちになれる居場所作りを今後も広げていけたらと思っています。



つみき



ごはんだよ！ どこまでもつづく おままごと

札幌市 西区おもちゃ図書館たんぼぼの会 代表 藤田和子

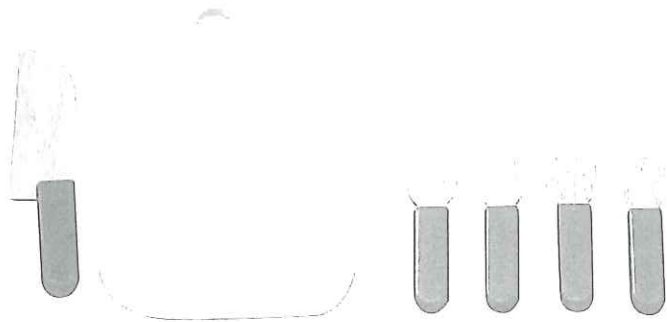
日々、こどもそして誰でも食に対する思い、感動、キッチンの匂い 湯気 食材の混ざり合う心地よい音、音！ そばで、つま先立ちでお母さんの様子を見て、私もやってみたくて しっかり見ている目 どんな味がするのかな！それをおもちゃ図書館でおままごとセットの前に立ち、お母さんの「まね」を始めようと目がキラキラ、かわいいフライパンを手に取り ふたをして何やら不思議な顔 ハイ出来上がりの声、小さいお皿に少しずつ親子で もぐもぐ おいしいね、時には会員も一緒にお仲間入り 笑顔で食している様子に、こどもはお母さんの「つもり」と言う満足の顔になっています。

家庭の中ではおままごとセットがそろっていないかもしれない 男児も女児も夢中のとき、おもちゃ図書館で夢見ている手つきのコック長のたのしい横顔に、うれしくそっと見守るお母さんと私たちです。時には取り合いもありますが、ゆっくりと解決しています。

食材の本物の味をと考えるのも、舌にその味を覚えてほしいと、お母さんも心がけての日常茶飯事でしょう。

研修会の講師の方より、おままごとあそびで「力がついて」「役割分担ができて」きますとそのお話の中で、学ばば変わる私でした。

こどもを通して楽しい遊び方、一人でも多くのこどもに遊びの夢を広げたいと開館日には、地域に愛されるおもちゃ図書館として活動を心がけて参ります。



ままごと



「ボールプール」大好き！

静岡県 函南おもちゃ図書館 今野成子

助成金で、子ども達に好評だった古くなったボールプールを新しく購入出来ました。

ボールプールに入った子どもの頭の上からカラーボールを落とし「きれいな雨ですょー」すると小さな手で自分の頭の上にボールをのせ雨を降らせたり、あおむけになった子どもの上にボールを沢山のせ「おてて、あしがない、どうしよう？」などと言うともぞもぞ手足を出してくれ、又少し大きな子は本物のプールよろしく腹ばいで手足をバタバタ動かす等大喜びです。

もう一回り大きいプールが欲しかったのですが、現状では設置場所が広くとれないことと利用者が低年齢化して来ていることで規格品（W143 cm× H42 cm）ですが楽しく使用しています。

多くの子ども達が遊ぶので衛生面でも十分に注意しなければと、2～3ヶ月ごとにおもちゃ全品の消毒を行っているので、その際にボールプールのボールは大きなビニール袋に入れ消毒液（エタノール）を振り密封し直射日光に30分～1時間ほど晒し、プール本体も側面、底面すべてエタノール液で清拭しています。

ボールプールで小さなお友達が仲良くボールを投げ合ったり、お母さん達と楽しそうに遊んでいる様子を見るボランティア達も自然に笑顔になっています。



ボールプール



布絵本「スイミー」について

愛媛県 西条おもちゃ図書館ぼけっと手作りリーダー 高原千代美

西条おもちゃ図書館「ぼけっと」（平成9年9月設立）で初めて会員と共に取り組んだ布絵本は「スイミー」でした。

親子で布絵本を読む時、間近で触って優しく感じてもらえるよう、色々な素材を用いて、形・大きさ・色合い・立体的に表現する等工夫を重ねました。幼児に読み聞かせをするときは「スイミー」を単体で動かせるように、しなりのよいワイパーを使って各ページを泳ぎまわるようにしました。みんなが動く「スイミー」を持ちたがるため交替で持たせるようにすると、喜んでいました。

いせえびのはさみやしっぽを立体的に動かして遊べるように工夫したり、いそぎんちゃくを出したり、引っ込めたり出来るようにした所などは、特別に興味を持って目をこらして見てくれました。

ドロップみたいな岩から生えたわかめやこんぶの林のページでは、岩の彩りがすばらしくきれいで、子ども達から歓声が上がって喜んでくれました。「スイミー」とそっくりの小さな魚の兄弟たちが持ち場を守って、一匹の大きな魚みたいに泳げるようになったところでは、大きな魚の形で動かせるようにした事、自分の手で動かせるのが気に入ったようです。

柔らかい布絵本の手触りや、自分の手で動かす楽しみなど、生き生きとした表情でお話の世界に引き込まれ、布絵本を楽しんでくれました。この「スイミー」の布絵本は今では、市内の幼稚園や小学校の教材として貸し出しする等活用され、喜んでもらっています。



布絵本「スイミー」

※ スイミー 絵本作家レオ・レオ二作の絵本

ちいさな赤い魚の兄弟たちのなかで、1匹だけ真っ黒の魚の「スイミー」大きなマグロがやって来て、兄弟の魚たちを飲み込んでしまいます。逃げられたのはスイミーだけ。一匹だけ残ったスイミーは・・・

「大漁だ!! おさかなつりは 楽しいよ」

岡山県 なぎおもちゃの図書館ひよこ 西 昌子

私達がおもちゃ図書館ひよこを開館して、最初に作った手作りおもちゃが“魚釣り”でした。開館前からお世話になっていた津山おもちゃ図書館の方が作製された、すばらしい魚釣りが心に残っていて、それを参考にみんなで一生懸命作りました。ボランティアさんの思いが詰まった魚釣りは当時から子ども達に大人気でした。大人も一緒になり、「やったあ！釣れた！」「これ何ていう魚？」とあちこちから声が…その声に「やったね！すごいね！」「いっぱい獲れたね！」と答える声…あっという間にその場に輪ができ、みんなを暖かい笑顔でいっぱいにしてくれました。あれから11年、魚釣りの人気は全く衰えません。通常開館日のほかに移動おもちゃ図書館にも必ず持って行きます。入り口の近く、まず最初に目につく場所に魚釣りのコーナーを設置しています。小さな子ども達や、中に入りにくい子どもさんの興味を誘い、自然に気持ちを開いてもらえたらと考えています。池の中に大小様々な魚、たこ、いか、貝…いろんな生き物が泳いでいます。その周りに釣竿とバケツ、するとあっという間に子ども達が集まります。体が不自由な子どもさんも、まわりの助けで一緒に遊びます。みんなと同じ空間で、みんなの声を聞きながら同じ遊びをすることで自然に笑顔がこぼれます。私達ボランティアにとり、とても嬉しい瞬間です。そして、大人達も集まります。釣り竿を持って挑戦したり、なかなか釣れなくて泣きそうな子どもに手を貸してやったり…大人も子どもも、大きい子も小さい子も自然に関わりながら、一緒に遊びあえるおもちゃだと思えます。小さな子ども達の間では、釣竿の取り合いが起こり、池に入って手づかみで獲る子も出てきます。大きな子ども達は誰が一番釣れるかという競争を始めます。小さなトラブルも含めて、実に様々なコミュニケーションができています。ある時小学生の子ども達が、釣った魚をバケツに入れ運んでいました。どうするかな？と見ていると、ままごとコーナーでお料理されて食卓に並べられ、ごちそうになりました。子ども達の粋にはまらない遊ぶ力に感心しました。その時にいる子ども達によって、様々に遊びが変化する“おさかなつり”は今日も大活躍しています。

※「大漁だ!! おさかなつりは楽しいよ」
タイトル作：西まどか（小四）



魚釣り



まと当て

新潟県 やひこおもちゃポケット 田辺澄子

やひこおもちゃポケットは、平成3年より開き親子のコミュニケーションの場として、布で作るおもちゃを元として、家庭で使っているような家庭用品、野菜果物などをフェルトや布で作っています。

子ども達は、母のまねをして遊び、人形をおぶって亀の子をきて子守をしたり前掛けをしめて、三角巾をかぶり、かいがいしく調理を作るまねごとをして遊んだり、大きな鯉を造り中をトンネルにしてくぐって喜んでいます。

いろいろなおもちゃの中でも、まと当ては人気があります。

大きな木を布で作り、りんごや柿をなげて実をつけて親子でよく遊んでいます。サイズはいろいろ子供の手の大きさや動かし方をよく見て持ちやすい物を作り選んであげたりします。

どんなおもちゃでも与えただけで子どもに一人で遊びなさいというのは無理な話です。はじめは興味を示さないおもちゃでも親やボランティアが楽しそうに一緒に遊んであげると、子どもは引きつけられます。そして、一緒に遊んでいるうちに子どもが喜ぶもの、好きなもの、興味をもっているものについてもわかってきます。

ママと楽しく遊んだおもちゃは、ひとり遊びにもお友達との遊びにも使われるので、私達もそれを見ながら参考にしておもちゃを作っています。

また、やひこおもちゃポケットの人達で子育て支援にボランティアに行き、どんなおもちゃに興味があるのかを見てきて作り、次に行く時に持って行き喜ばれています。

今は紙芝居を布で作り、それを老人会の集まりや老人の施設にまた保育園にもっていき見せています。年寄りには昔をなつかしく思い出して喜ばれています。

子どもたちの心に、生きる力を育てていくためには、お母さんが安心して子育てが出来る環境を整えていくことではないでしょうか。





音楽を通しての成長

大阪市 鶴見区おもちゃ図書館たんぼぼ 向江奈津子

大阪市鶴見区おもちゃ図書館たんぼぼでは、第1土曜日にたくさんのおもちゃを使ってあそび、子ども同士のふれあいと、親達の交流を図っています。その中で、年に数回音楽療法の先生を招いて、音楽を通して遊んでいます。

歌を歌いながら御挨拶したり、ハンドサインを使って音を表現したりしています。その中でも特に子ども達のお気に入りには楽器を使ってみんなで演奏をすることです。先生が持ってきて下さる色々な楽器を子ども達自身が選んで鳴らします。たんぼぼには様々な障がいを持った子ども達がいるので、お母さんと一緒に持って鈴を鳴らす子や、自分でリズムをとって太鼓をたたいたりする子もいます。

最初はただ音を出すだけで楽しんでいる子ども達も、先生の指導の下、みんなで合奏をすると、楽しい音色と達成感で、子どもたちはとても素敵な表情をしています。

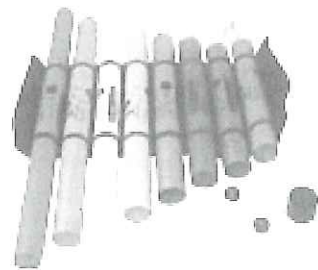
先生が来られない時には楽器がなく、それではいつでも楽器に触れることができないので、助成金で色々な楽器を購入しました。

ドレミパイプは上手にたたかないとメロディーを奏することはできませんが、たたいて色々な音が出ることがおもしろいようで、みんなでわいわい楽しみながら遊んでいます。

たんぼぼで主催した区民センターでのクリスマスコンサートでは、地元の中学校の吹奏楽部の生徒さんに来て頂いて演奏をしてもらいました。その時はみんなに鳴子を配って一緒に合奏しました。それはとても素晴らしく、子ども達は本当に誇らしげな様子でした。

音楽はどんな子ども達にも楽しめます。聞いているだけでも楽しい気持ちにさせてくれます。これからもたんぼぼでは色々な楽器を使って音楽とふれあい、子ども達が音楽を通して成長してくれることを、とても楽しみにしています。

※ 鳴子（なるこ）は木製の打楽器



ドレミパイプ



スイッチで遊ぶ

横浜市 いずみ会館おもちゃ図書館 中嶋武子

富山県氷見市で開催された東海・北陸地区研修会に併設されたおもちゃ広場での出来事です。“シンバルモンキー”にジェリービーンズスイッチをセットしておきました。男の子が来て、そっとスイッチを押しました。“チャンチャンチャン”赤い帽子の猿が上手にシンバルを鳴らしました。初めはすぐ手を離したりしていましたが、そのうち“チャンチャンチャン”という音は力強く響く様になりました。鳴らしたり止めたり一時間近くゆったりと楽しんでいました。自分一人の力で思いのままに遊べる嬉しさを体中で表現していました。その様子を見ながら以前出会ったK君の事を思い出しました。

K君は手足を思う様に動かす事が難しく、いつも皆の遊んでいる様子をじっと眺めているだけでした。何か遊べるおもちゃはないかしらと考えていた時ジェリービーンズスイッチに出会いました。“シンバルモンキー”にセットしてK君の前に置きました。手を添えながら鳴らしてみた時のK君の顔は、泣きそうな・嬉しそうな・ビックリした様な…。次に会った時は自然に手が少し前の方に動きました。「やってみたい」と云う気持ちの表れだったのでしょう。これをきっかけにK君はおもちゃ遊びの楽しさを見つけられる様になりました。

今私達のおもちゃ図書館では、スイッチは棚の中で眠っている事が多くなりましたが、時々はお出して遊びます。ぬいぐるみにセットすると子ども達は大喜び。スイッチを押しているお母さんの顔もにこやかになります。遊びのきっかけ作りになったスイッチを身近な道具として眠らせない工夫が求められている様に感じるひとときです。

※スイッチをセットし、マーチングミッキー・シンバルモンキー等の音を“ハンカチ落とし・いす取りゲーム”の合図として使ってみるのも楽しい工夫の一つです。



Q & A

① よいおもちゃとは？

良いおもちゃという考え方はいろいろ有りますが、基本的には

- ・安全である
 - ・修理が出来る
 - ・遊び方がたくさんある
 - ・きれいな色
 - ・きれいな音
- このような条件があると思います。

② 障害のある子どものためのおもちゃとは？

障害のある子どものための特別なおもちゃがあるわけではなく、現在あるおもちゃをいかに工夫して、その子が楽しく遊べるかが大事です。対象年齢などが書いてあるおもちゃもありますが、それは目安で必ずしもあてはまりません。今、その子どもが何に興味をもっているか、どんな発達をしているか、それはそばにいる方がよくわかると思います。その子にあったおもちゃを選んであげてください。自分で選ぶかもしれません。その遊びを楽しくするのは、そばにいる方が、上手に手助けすること、何倍にも楽しい時を過ごす事ができます。今号にも事例がたくさんありましたように、そこに新しい発見や、嬉しいおまけが生まれるかもしれません。

③ どんな遊び方をしたらよいの？

おもちゃ図書館では、出来るだけ一人で遊ぶのではなく、お友達と、親子で、ボランティアと、と言うように誰かと一緒に遊べると良いですね。おもちゃは人と人、心と心をつなぎます。また、一人遊びも大事ですので、夢中になっている時は、周りで安全を見守ってあげてください。

※今まで発行されてきた「育成ハンドブック」の中に、参考になるものがあります。いくつかをご紹介します。この他にもたくさん事例がありますので、今までのハンドブックをぜひ参考にしてください。

遊び方・かかわり方について

ハンドブックNo.	表題	著者（当時の役職）
No.51 (2005年2月)	大切な“人とのやりとりあそび”	心身障害児総合医療療育センター 三浦幸子
No.52 (2005年6月)	‘気になる行動’ とあそびを誘う工夫	同上
No.52	手操作の発達と遊び	中央愛児園 久米洋子
No.52	手操作を促す子供に人気のおもちゃ	同上
No.53 (2005年9月)	発達障害児と遊び	同上
No.53	障害のある子どもが楽しめるおもちゃの紹介	近畿福祉大学教授 繁成剛
No.54 (2005年11月)	おもちゃ遊びのためのコミュニケーション技術	東京大学先端科学技術研究センター特任教授 中邑賢龍
No.54	「共遊玩具」について	日本玩具協会共遊玩具推進部会 高橋玲子
No.66 (2009年2月)	「おもちゃ」はコミュニケーションを育む「共具」	共立女子大学教授 武藤安子
No.68 (2009年9月)	おもちゃと遊びについて学びましょう	おもちゃの図書館全国連絡会 事務局世話人 峯島紀子

おもちゃの紹介

ハンドブックNo.	ページ	
No.53	頁10～11	おもちゃ図書館で喜ばれている(定番)おもちゃ
No.54	頁10～11	おもちゃの図書館で人気のおもちゃ
No.55 (2006年2月)	頁3～11	各おもちゃ図書館の手作りおもちゃ
No.57 (2006年9月)	頁6～7	楽しいおもちゃいろいろ



トイ・ドクターリレートーク

「蘇ったオモチャに感謝の笑顔」

ある日、3歳位の女の子の手をつないで訪れたお母さん。「これ修理してほしいんですけど」女の子の手にワンちゃん人形が握られています。「電池を新品に取り替えてみたんですけどだめなんです」とお母さん。

「どーね、おじちゃんに見せてくれる？」そっと大事そうにさしだすワンちゃん人形を受け取り、「これどういう風に動いていたの」と女の子に尋ねる。「ノコノコ歩きワンワンと鳴くの」との返事。子供との対話もなんとか早く直してあげたいという意欲に繋がります。早速電池を取り外して、電池チェッカーで調べてみます。チェッカーの針は緑色を指し電池は大丈夫のようです。

つぎに電池ボックスの電極のバネの加減もよさそう、電極の一部の表面に錆が出ています。ここで接触が悪くて電気が流れず動かなくなる例が多いのです。「ちょっと待っててね」とペーパーで磨きます。私のやることをジーツと見ています。電池を入れてさあテスト。動いて鳴きました。「わあ直った」とうれしさ満面の女の子、「すごい」とお褒め？の母の声。

最近のオモチャは高度化し私たちの手に負えないものもありますが、前例のような接触不良や電線が切れたなどが結構多いのです。愛着のあるオモチャが蘇った時の充足感がトイ・ドクターの私をやる気にさせています。捨てる前に一度オモチャ病院を訪ねてみましょう。

愛知県 東海市おもちゃ図書館附属おもちゃ病院 山下政夫

表紙の絵 西田 真結香さん

裏表紙の絵 三浦 二葉さん

広島県 おもちゃライブラリーつくし

5分でできる手づくりおもちゃ 100倍楽しむ本

年齢別0～5歳 子どもに合わせて選べる ワンランク上をめざす保育者のために

木村 研 編著 いかだ社

子どもが楽しんで遊んでくれるものを作りませんか。子どもが喜ぶ姿を見た時 作り手はおおきな喜びと幸せを感じます。なによりも作った人の温かさや愛情を感じます。失敗を恐れずおおらかな気持ちで挑戦して下さい。安全第一に心がけることも大切です。

紹介した本の中のおもちゃは短時間で作れること、作り手自身も楽しめるもの、工作が得意でなくとも大丈夫、簡単に作れるし、組み立ても短時間で済みます。

この本は年齢別に、3つの章に分けられている。

1章 0～1歳 小さい子どもがおもしろく遊べるおもちゃ

2章 2～3歳 子どもがおもちゃ作りに参加できる

3章 4～5歳 楽しさがわかれば自分で作れる

おもちゃは遊ぶための道具、子どものペースにあわせて一緒に、おもちゃの楽しさを知ってほしい、そして遊んでほしいと思います。

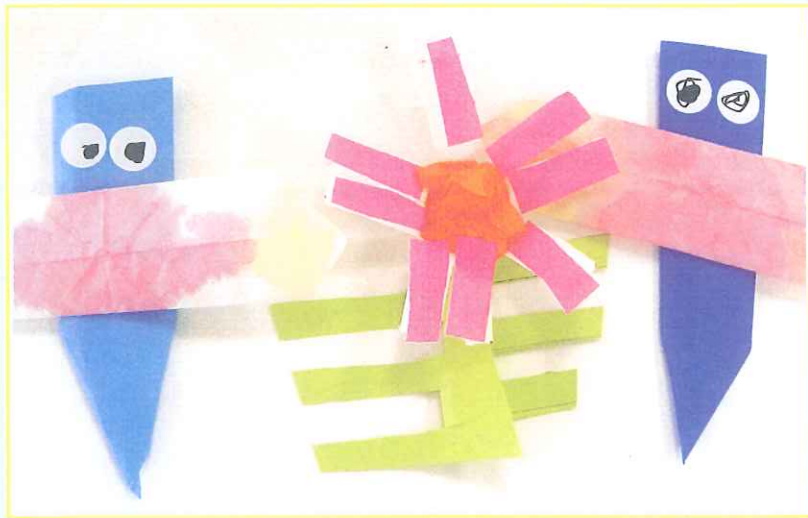
子どもと手作りで遊ぶ時、子どもの作れる程度まで作っておき、色をぬる、折るなど、一緒に楽しみながら作品を完成させましょう。その作業は子どもに満足感を与えたり、自分で遊び方を考えるヒントにしたり、大人の私達が思ってもみないような、ビックリするような遊び方に発展する場合があります。

手作りおもちゃの研究家でもある著者は、子どもの頃工作が苦手だったそうです。これは工作でなく「おもちゃです」「おもちゃは子どもが遊ぶため、生きる力をつけるための道具、おもちゃの楽しさ、遊びの楽しさを知ってほしい。」と著者は「いつでも どこでも だれとでも」の中に書いています。

子どもにとって遊びは育ちの原点です。おもちゃと遊ぶ時の子ども達の目はキラキラと輝いています。身近な素材を使って簡単に5分で出来る手作りおもちゃの楽しさを、この本はわかりやすく教えています。地球環境を考えて、あなたも手づくりおもちゃにチャレンジしてみませんか。

東京都 新宿おもちゃの図書館あいじえん 松原ミチ





育成ハンドブック No.69

発行 財団法人 日本児童福祉協会
〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-10-503
編集 おもちゃの図書館全国連絡会
〒104-0061 東京都中央区銀座4-14-6 ギンザエイトビル3F
電話 03 (5565) 0823 FAX 03 (5565) 0824
E-mail : renrakukai@toylib.or.jp URL : <http://www.toylib.or.jp>

※お問合せはおもちゃの図書館全国連絡会へお願いします。